

観光交通の社会経済学的研究

教授 藤井秀登

1. 研究内容

観光交通は、2つの形態に分けられます。1つ目は、観光者を出発地から観光地まで運ぶ派生的需要としての交通です。2つ目は、観光者の本源的需要として目的化している交通です。両者ともに観光にとって有用な交通形態です。

まずは両者の関連性・差異性をサービスという視角から検討していきます。たとえば、サービスの特性として次の2点が挙げられます。第1にサービスの即時性ゆえにその生産と消費の過程が同時に遂行されること、第2にサービスの質評価には多分に享受者の価値観が介入することです。商品化されたサービスをみると、その提供者は販売を生産に先行して確約しようとするのが指摘できます。観光交通が取り扱うサービスにもこうした特性が貫かれています。

観光交通は観光だけでなく私たちの日常生活にも関連している領域があるため、研究テーマ設定の糸口が比較的容易にみつかります。しかし、以下の点に留意して下さい。すなわち、観光交通を社会経済学的に認識すること、言い換えれば歴史的・論理的な側面からの分析を試み、観光交通の立体的な理解に努めることです。過去・現在・未来においてテーマは豊富にあります。

2. ゼミの進め方

≪2年次≫

「観光交通を学問化する」をモットーに、観光交通の研究に挑みます。その際、弁証法や認識論、交通論や観光事業論などに関する基礎的文献の学習、最新の新聞記事（観光交通関連）、および英語文献（観光交通関連）を題材に討論していきます。このほか、世界遺産の学習も予定しています。春・夏の合宿はあります（実施できない場合、オンライン授業で代替します）。

≪3年次≫

年間を通じて、観光交通に関する新聞記事と英語文献を題材に討論します。さらに、春学期はグループごとに共同研究を実施します。秋学期は学内外で共同研究の発表を行ない、プレゼン能力を涵養します。11月以降からは卒業論文作成の準備に向けた個人研究の指導が中心となります。春・夏の合宿はあります（実施できない場合、オンライン授業で代替します）。

≪4年次≫

観光交通に関する新聞記事や英語文献を題材に多様な観点から討論します。また、春学期は卒業論文の本格的な作成に向けた個人研究の指導をします。秋学期は卒業論文の完成に向けて執筆を支援していきます。卒業論文は製本・保管します。春・夏合宿への参加は任意です。

3. 教材

弁証法・認識論、社会経済学・ミクロ経済学、文化人類学・精神分析学、交通論・観光事業論のような観光交通を研究するために必要な領域に関する基礎的文献を開講時に指定します。

4. 成績評価の方法

2・3年生は報告・討論内容、プレゼン力、チームワーク力、4年生は主に卒論の完成度といったゼミ活動への取り組みを尺度に、学年ごとの基準で総合的に評価します。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

ゼミの目的は、社会を幸福にする能力育成の場であるだけでなく、卒業後もざっくばらんに語りあえる友人を獲得する場でもあると考えています。テーマに関心があり、目的意識をもった主体性ある学生を求めます。秋に実施予定のOB・OG会では、ゼミ卒業生との交流を深めて下さい。